

デッチ上げ逮捕策動を許すな

日刊 動労千葉

87. 5. 28

No. 2561

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六（公衆）〇四七二・二二七二〇七

千葉西署、「4・7デッチ上げ」を口実に 幕張支部 滝口、永島両君に出頭命令（5/25）

警察権力と革マル松崎の手によって、断じて許せぬ動労千葉破壊の新たな攻撃がかけられようとしている。

デッチ上げ逮捕を狙った大弾圧

五月二五日、千葉西署は、革マル松崎、土屋粹らによってデッチ上げられた「4・7事件」一タレ込み告訴を口実に、幕張支部・滝口支部長、永島青年部書記長代行に突如、出頭命令を通知してきた。

さらに、幕張支部吉野・川崎両君、館山支部川名君に対し「参考人」として、取り調べを強要しようとしている。

これは明らかに滝口・永島両君のデッチ上げ逮捕、幕張支部破壊、動労千葉解体を狙う大弾圧である。

「4・7」からすでに一月半

革マル松崎は、動労千葉を破壊するためには手段を選ばない。存在もしない全く虚構の「事件」をデッチ上げ、自らデッチ上げたその幻影をもって権力に闘う仲間を売り渡そうとしているのだ。

そして、許せぬことに警察権力は、デッチ上げであることを百も承知で、動労千葉破壊の一点で革マル松崎と利害を一致させ、襲いかかるうとしているのだ。

すでに「4・7」から一カ月半以上も経っている。権力も、当局も、この間、何か動労千葉破壊の機会でもつかめないものか、と徹底した調査をしたが、結局デッチ上げであるがゆえに、弾圧のきつかけすら何ひとつつかめず、とつこの前に結着のついていた問題である。

二名を守りぬき、デッチ
上げ逮捕策動粉碎へ

それを、この後におよんでデタラメにデタラメを重ねるデッチ上げ逮捕を策動している理由は一体何か？ それは何よきもこの間、三年有余にわたる徹底した差別・選別、首切り、組合潰しの攻撃の嵐の前にも、動労千葉だけが唯一屈せず、四月以降も堂々と団結を守り前進しているからである。

革マル松崎や権力は、「こんなはずではなかった」と愕然とし、そして、動労千葉の闘いが全国に拡大することに恐れをなしているのである。

また、この弾圧策動は、この間、当局が強行している強制配転・出向攻撃と軌を一にした攻撃である。当局の日茶苦茶な組合潰しの攻撃を、警察権力と革マル松崎が卑劣な弾圧策動をもってバックアップしようとしているのだ。

われわれは、いかなる弾圧も恐れるものではない。全組織をあげた反撃で、絶対に警察・革マル連合を粉碎する。

二名の仲間を守りぬき、デッチ上げ逮捕策動を粉碎せよ。

5月30日（土）～31日（日）
高級紳士・婦人服 ロッキンガム
展示即売会へ
労働者福祉センター

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！